新刊紹介

『日本人間工学会認定
人間工学専門資格試験ガイドブック』

山本　博樹　流通科学部 助教授 共著
日本人間工学会

『21世紀の国際機構
―課題と展望―』

繁田　泰宏　国際学部 助教授 共著
東信堂

『日本外交史ノート
―第一次世界大戦から現代まで―』

広野　好彦　国際学部 助教授 著
晃洋書房

『最新財務諸表会計』

郡司　　健　企業情報学部 教授 著
中央経済社

大阪学院大学広報
L'horloge ロルロージュ No.128
February 2005

●発行　大阪学院大学
大阪学院短期大学
●編集　広報部

〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
(06)6381-8434(代表)

URL
http://www.osaka-gu.ac.jp

編集後記

今からちょうど100年前、日本は日露戦争最大の陸戦である奉天会戦において激闘中であり、故 司馬遼太郎はそれを『坂の上の雲』に描いた。現在の日本経済はバブル崩壊の苦難にあえいでいるが、もう一度、新たに坂の上の雲を見つめて努力することが期待されている。

後期試験が終わるとしばらくは春休みである。春休みは比較的長いので、学生諸君は自由な学習に、旅行に、就職研究に有意義な時間を過ごしてほしい。昨年は夏季オリンピックがあり、日本選手の活躍に大いに盛り上がった。本学のスポーツ選手も各競技で活躍しており、その中で、本号ではラクロス部を取り上げた。大阪学院大学の若い力と熱気をお伝えできたかと思う。これぞ本学の坂の上の雲である。

R70 この広報は、古紙配合率70%再生紙を使用しています。

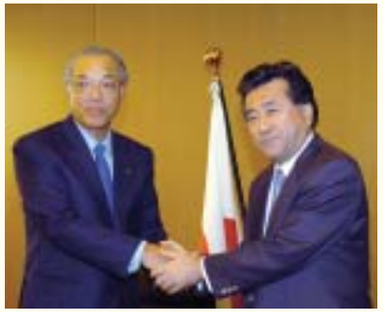
L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations Bulletin
ロルロージュ No.128
February 2005

特集
吹田市と連携協力の基本協定締結
白井総長「オナラリー・フェロー(Honorary Fellow)」授与される
「大学院 コンピュータサイエンス研究科」開設
新プログラム「English For Life」開設
ESSAY
「学生時代」　髙原　利栄子
FOCUS
アントレプルヌールシップ
SUCCESS
ラクロスとともに
CAMPUS LIFE
CAMPUS NEWS DIGEST
INFORMATION
新刊紹介

吹田市と連携協力の基本協定締結

平成16年12月２日(木)、本学ファカルティラウンジにおいて本学と吹田市との連携協力の基本協定書の調印式が行われました。



連携協力の目的は、本学と吹田市が歴史的・文化的資源の活用および知的・人的資源の交流を図ることにより、産業・教育・文化・まちづくり等の分野において双方の発展と充実に寄与し、地域連携を積極的に推進することです。

今後は、「大学・学生と地域の対話」「大学の地域への開放」「大学・学生と市民の地域における交流・連携」「地域の大学・学生への支援」「大学・学生と地域産業との共同研究開発」など地域連携・産学連携をキーワードとした活動や「都市環境」「都市景観」「社会福祉」「スポーツ」などまちづくりに関する連携協力を広範囲において検討してまいります。

「大阪学院大学と吹田市との連携協力の主な具体的事業内容」

1．産業関係
（1）ベンチャービジネスの養成・支援
（2）ビジネスインターンシップ学生受入の推進（市役所、企業など）
（3）大学研究所研究員として市内企業社員などの受入
（4）共同研究の推進

2．教育関係
（1）スクールボランティアの派遣
（2）授業の協力
（3）運動会、体育大会への協力
（4）クラブ活動の指導協力
（5）学生インターンシップ受入の推進（市役所、教育現場など）
（6）大学主催による市民向け各種講座の開講

3．地域・市民との交流関係
（1）大学主催行事への市民参加、地域への開放
（2）地域行事への協力
（3）市主催行事（吹田まつりなど）への企画・準備・運営の協力
（4）国際交流活動への支援・協力
（5）学生、市民双方の文化活動発表の場の提供
（6）市主催の生涯学習、社会教育に関する行事への大学教員、学生の協力

4．その他
（1）市が設置する各付属機関等委員会への大学教員（職員を含む）の派遣
（2）大阪学院大学、吹田市双方の人的・知的資源の交流

白井総長「オナラリー・フェロー（Honorary Fellow）」授与される

白井善康総長が、昨年12月に本学の提携校であるケンブリッジ大学クイーンズカレッジから「オナラリー・フェロー（Honorary Fellow）」の称号を授与されました。

授与式は夕刻よりクイーンズカレッジのチャペルにおいて厳かに執り行われました。その後、白井総長を囲んでクイーンズカレッジのフェローや招待客ら約100名の出席を得て、盛大にディナーパーティーが開かれました。さらに夜半からプレジデントロッジにおいて催されたクリスマス・ティーパーティーには約130名が集い、歓談されました。

「オナラリー・フェロー（Honorary Fellow）」は、ケンブリッジ大学のそれぞれのカレッジが、各界で活躍されたかたに贈る大変権威のある名誉な称号です。

ケンブリッジ大学創設以来、日本人への授与は極めて少なく、クイーンズカレッジからは初めてという栄誉に浴されました。これは、世界に冠たるケンブリッジ大学が、白井総長の国際的貢献のみならず、大阪学院大学の各分野での活動が世界的水準の大学として評価されたとともに、今後も本学が世界に羽ばたく大学として、期待されていることにほかなりません。

本学とケンブリッジ大学クイーンズカレッジとの学術交流協定の締結以来、夏期研修と短期留学プログラムを合わせて500名を超える本学の学生が研修に参加し、ケンブリッジ大学東洋学部からは約20名の学生が本学で日本語や日本文化を学んでいます。

さらに、今春から本学とクイーンズカレッジの間で遠隔教育を開始し、また本学ロースクールでは、クイーンズカレッジ・ロースクールの教授を招いて「EU法」などの講義を行う予定です。

クイーンズカレッジのJ.イートウェル学長は、平成９年４月の本学入学式に出席されたのをはじめとして本学との交流に大変熱心で、平成16年６月にはM.ミルゲート教授と共に来学され、本学でご講演いただいたのは記憶に新しいところです。

スポーツに関しては、平成12年以来、クイーンズカレッジのラグビーチームとそのコーチであるスティーブン・ロジャース氏を招いて、ラグビーワークショップの実施や、本学ラグビー部との合同練習・合宿を通して交流を深めています。

白井総長が「オナラリー・フェロー（Honorary Fellow）」の称号を授与されたことにより、本学とクイーンズカレッジとの関係がさらに強固になるものと確信しています。

大学院コンピュータサイエンス研究科開設

情報技術の核心となるコンピュータ技術は、今後ますます急速に発展し、次々と新しいハードウェア・ソフトウェアが現れ、通信技術の進展とともに情報システムの開発が急激に進んでいます。そしてこれを構築する技術者とともに、それを使いこなす高度に訓練された技術者が大量に必要とされています。このような社会的要請を受け、本学では情報科学の教育および研究の根幹を一層高度化し、充実・発展させ、急速に進展する高度な技術を教育できる大学院として、平成17年４月にコンピュータサイエンス研究科（修士課程）を開設します。

本研究科では、とりわけ社会のニーズが高い「ネットワーク」、「マルチメディア」および「VLSI」の３分野に力点を置いた実践的な技術者の教育を目標にしています。そして、コンピュータサイエンスの専門的技術者であると同時に、新しい発想でのシステム・ネットワークの開発能力、利用者の観点からのシステムの構築能力、総合的な能力を持つシステムエンジニアとして社会的要請に応えることのできる技術者の育成を目指しています。

開設科目
〔ネットワーク分野〕
　情報セキュリティ技術、ネットワークアプリケーション
〔マルチメディア分野〕
　情報インターフェイス、ソフトウェア開発論、知能情報メディア技術、協調マルチメディア技術、エージェントシステム
〔VLSI分野〕
　高信頼化VLSI設計、システムCAD
〔関連科目〕
　情報技術特論Ⅰ・Ⅱ

修了後の進路としては、コンピュータの設計技術者、ASIC製品のシステムの開発技術者やサポート技術者、LSICADシステムの開発技術者、CADシステム利用のサポート技術者、マルチメディア機器の開発技術者、マルチメディア機器利用のサポート技術者、メディアコンテンツ開発技術者、ネットワーク応用製品の開発技術者、ネットワーク利用のサポート技術者などとして活躍できる人材の養成を目指しています。

本学のコンピュータサイエンス研究科の開設意義とその特色をご理解いただくとともに、次世代を担う若い諸君のエネルギーで情報化時代へのチャレンジを期待しています。

平成17年度　コンピュータサイエンス研究科（修士課程）入学試験概要

募集人員：10名
出願資格：大学を卒業した者、または平成17年３月卒業見込みの者など

募 集	1 次	2 次
試 験 日	２月27日(日)	３月13日(日)
出願期間	２月14日(月)～24日(木) 必着	３月１日(火)～10日(木) 必着
試験科目	コンピュータアーキテクチャ・プログラミング、面接	

入試要項は大学院事務室（５号館２階）またはホームページにて取り扱っています。
（http://www.osaka-gu.ac.jp/g_admission/request_gra.html）

新プログラム「English For Life」開設

本学では平成16年度後期から、より実践的な英語を学習するプログラムとしてEFL（English For Life）を開設しました。このプログラムは、「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」ことを目的としています。学習するための一つの手段として英語を用い、より実践的な英語能力を身につけるとともに、様々な分野の理解を深めることを目標にしています。

「英語を学ぶ」ことからワンランクアップし、生きた英語を自在に使いこなせる人材の育成を目指しています。

なお、このプログラムは少人数教育が生む効果をねらい、各クラスの定員を15名以内としています。

クラス紹介

Applied Advertising　担当/ D.M.アラカキ助教授

マーケティング戦略や宣伝広告デザインなどを基礎とし、英語で宣伝広告を作成する方法を学びます。市場細分化、目標市場、商標設定、市場需要、広告作成戦略、広告メッセージ戦略、色の心理的インパクト、基本デザイン原理といったマーケティングコンセプトを学んだ後、コンピューターグラフィックソフトを使って、サービスや商品プロモーションのための４色刷りチラシやパンフレットを作成します。

Broadcasting　担当/ J.A.ビューロウサーン客員講師

ニュース番組制作やラジオ番組制作を通して、テレビやラジオの制作・放送について英語で学びます。伝統的なメディアや新しいメディアでの報道、ジャーナリズムに興味を持っている学生を対象とし、カメラの前後での姿勢や番組構成などのテクニックを学びます。さらに、機器の操作から制作・出演までブロードキャスティング全般について学ぶことができます。

Money Management　担当/ F.F.タマカワ客員助教授

予算組みや決済手段の選択など、日常生活の中で役立つお金にまつわる事柄について、英語で学びます。日常生活においてどのように数学が使われているかに注目しながら、総合的な英語能力を高めます。簡単なコンピュータ技術を使うことにより、買い物、銀行取引、予算組みなどの場面においてどのようにお金を管理するかを学ぶこともできます。この授業は海外へ留学や旅行を考えている学生にも役立つでしょう。

Publishing Design　担当/ C.H.ケリー教授

新聞、ポスター、雑誌、その他の印刷物をもとに、グラフィックデザインやデスクトップパブリッシング（パソコンを用いて出版のための一連の作業を行うこと）の基礎を学びます。この知識を使い、学生一人ひとりが記事を書き、レイアウトし、英字新聞や雑誌を作成します。

Storytelling and Digital Media　担当/ R.A.タニモト助教授

プレゼンテーション用ソフトやデジタルカメラを使って、物語を作り、英語で発表します。

学生はオリジナルの短い物語を作成し、それを発表する際、口頭的、聴覚的、視覚的コミュニケーション能力を高めるためにコンピュータを使います。この授業では、パワーポイントやデジタルメディアの使用方法について実践的にトレーニングできます。

ESSAY 15

「学生時代」

髙原　利栄子　企業情報学部 助教授
主担当科目：簿記原理・内部統制論・会計監査論
趣味：映画・音楽鑑賞
著書：「監査論の基礎知識（四訂版）」（共著）

1993年、当時大学生だった私は、学生時代の思い出を作ろうと、アメリカ大陸を２か月かけて横断する旅に参加しました。この旅は、旅行会社が設定したものではなく、大学に非常勤講師として来られていた英語の先生が窓口となり、現地のボランティアの協力のもと、観光地はホテルに、それ以外はボランティアのお宅にホームステイさせていただくというものでした。

旅は、ロサンゼルスからニューヨークまでで、コースは北・中央北・中央南・南コースと分かれており、その間およそ17か所に滞在するものでした。全国からこの話を聞きつけた学生が、希望するコースを選択し、主催者側で自由に組み合わされた８人が１グループとなり、バスで移動するこの旅は、ツアーの費用も格安で、そのことも私が参加したいと思う重要な要因でありました。

南コースを希望した私は、男性３人・女性５人の混合グループに編成されました。出発前には説明会があり、グループの顔合わせとともに、前年度参加した人たちから旅行に当たっての心構えや準備のアドバイスを聞きました。私にとっては初めての海外旅行ということもあり、ワクワクした気持ちで出発しました。

しかし、旅はイメージしていたものと全く異なるものでした。添乗員が旅に同行してくれると思っていたのですが、実際はそうではなく、ロサンゼルスに着くと、旅行日程が書かれた紙とバスの回数券が渡されただけだったのです。つまり、「あらかじめ決まった旅行日程に従って、自分たちでバスのチケットカウンターに赴き、自分たちが赴いた街で何をするのかを決める。」そういう旅だったのです。

ロサンゼルスに着いたときは、このシステムに正直驚き、自分たちの考えが甘かったと痛感しました。けれども、ここで引き返すわけにはいきません。何とかつたない英語を駆使し、旅行を始めることにしたのです。

旅行では様々な経験をしました。時間通りにバスが来ないのはよくあることでしたが、きたバスも満員で乗ることができず、次の便が到着する深夜までバス停で待ったこと。日本にはなじみのないアメリカ大陸内の「時差」を考慮に入れておらず、途中のバス停で待ち時間が１時間もあると勘違いし、気がつくとバスが発車してしまっていたこと。メンバーの一人のスーツケースが行方不明になり、結局最後まで見付からなかったことなど……。数え切れないくらいのアクシデントがありました。幸い、大事に至るような出来事はありませんでしたが、メンバーのだれかが困っているときは助け合い、また予定通りにうまくいかないときはその場を楽しむように心掛けました。

旅を思い返すと、自分たちで「何とかやっていく」ということは非常によい経験だったと、今、改めて思います。学生時代はお金に余裕がないと思いますが、惜しむばかりでは何も得られません。当時はそうめったに行くことができない海外旅行と考えていましたので、「あれも経験したい、これも経験したい」と貪欲でもありました。そこで、私たちは色々なところから情報を集め、いかにして時間もお金も無駄なく、しかも楽しく一日を過ごすかについて真剣に取り組みました。

例えばアリゾナ州のフェニックスに滞在したときには、「グランドキャニオンに行こう」とみんなで話し合いました。街の案内所でバスツアーを見付けたのはいいものの、バスツアーでは帰りの時間が早く、夕陽を見ることができません。「どうせ行くのなら夕陽は見たい。」そこで、私たちは８人が乗れるバンを手配しました。念願の夕陽は素晴らしく、自分たちだけの“オリジナル”の旅行ができたことで、大きな達成感を得ることができました。

そんな中、「さあ、帰ろう」とバンに乗り込んだのはいいものの、帰り道、車の往来もまばらな森の中でバンが故障し、真っ暗闇の中、代車が来るまで１時間半ほど待つことになりましたが、当時は満足感からさほど不安に思うことはありませんでした。

２か月間、８人でいろんなことに積極的にチャレンジし、何とかやり遂げたことは「外国でも何とかやっていける」という自信にもつながりました。このことは、一人だけでない、仲間と一緒であったからこそできたのかもしれないと思います。

さて、現在、私の所属する企業情報学部では、2002年からゼミナール間の親睦を図ることを目的に、ゼミナール対抗ソフトボール大会を、学園祭である岸辺祭期間中に開催しています。

第１回目の大会では、ゼミナール１期生でもある当時３年次のメンバー１チームのみの参加となりました――にもかかわらず、チームの快進撃が続き、絶対に優勝したいという“執念”が、チームを一丸とし、見事優勝することができたのです。

翌年の大会においても１期生のみのチームと１期生と２期生からなる学年混合チームの２チームで参加したのですが、ここでもみんなの思いが形になって、連続優勝をすることができました。洋服が土ぼこりだらけになりつつも、一生懸命プレーしていた一人ひとりの姿が昨日のことのように思い出されます。

ソフトボール大会と私が学生時代に経験したアメリカ旅行に共通して言えることは、「優勝したい」あるいは「旅を有意義にしたい」という「共通の思い」が一つになり、実を結んだのだと思います。それに加えて、一人ひとりが積極的に大会に参加したことも非常に意義深く思います。どんなチャンスでもかまいませんが、それを主体的につかんでいくことが、後の人生につながると思うからです。

大会を通じて、人間関係の輪が広がったようにも見受けられました。ふだんはあまり話すことがなかったメンバーと親しくなり、これを機にゼミナールも積極的な発言が増えたり、ほかの授業でもゼミナール生同志で集まって受講するようになったのです。

アメリカ旅行から十余年、親しくなった友人たちとは離れ離れではありますが、今も変わらぬ友人関係が続いています。それぞれが各分野で活躍しており、私は彼らや彼女らから多くの刺激をもらっています。たまに集まれば、旅の思い出話でいつも盛り上がり、時間を忘れてしまうほどです。

１期生が卒業した今年、卒業後も交流を深めたいと、ゼミナールのWEB掲示板を開設しました。掲示板に書き込みをしてくれた卒業生たちと夏休みに久しぶりに会いました。今、彼らはそれぞれの道で頑張っており、職場で経験したことなどをいろいろ話してくれました。このように定期的に卒業生からいろんな話を聞かせてもらうのも、今の私の楽しみの一つとなっています。

学生時代ほど時間的に余裕がある時期はほかにはなく、様々なチャンスもあると思います。学生の皆さんにも、このような友人と共に経験できるものに積極的に取り組み、深い関係を築いてもらいたいと願っています。

次回５月号のESSAYは、杉本 喜美子 国際学部 講師にお願いします。お楽しみに！

FOCUS
アントレプルヌールシップ

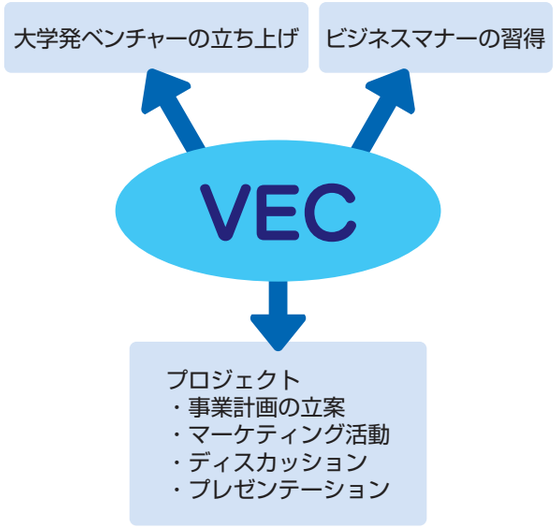
起業家精神をはぐくむ大学として
～The University for Future Entrepreneurs～

本学では、現在の国際社会で必要とされるビジネスシーンで活躍できる優れた実務能力を持つ人材育成に力を注いでいます。それは、これからの時代を切り開くために必要な能力を養うこと。“アントレプレナー”とは、「起業家」のみにとどまらず、次代のビジネスシーンで活躍できる人材を意味します。“アントレプルヌールシップ―起業家精神―”を養い、新たなビジネスを創造できる人材の育成を目指し、「ベンチャー＆アントレプレナー・コミュニティー（VEC）」「アントレプレナーレッスン」の２つのプロジェクトをスタートしました。

Venture（ベンチャー） & Entrepreneur（アントレプレナー）・Community（コミュニティー）（VEC）

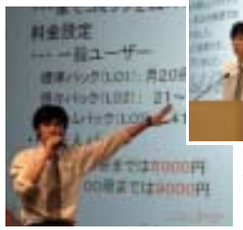
在学中にプレビジネス活動を実際に行う学生主体のワークショップ型プロジェクト。学生時代からビジネスの疑似体験を行い、大学発ベンチャーの立ち上げを目指すとともに、将来、社会に出て活躍できるスキルを習得します。与えられて何かを行うということではなく、自分の意志で考えて動くことが重要です。「大学生活４年間で何を学ぶのか」を徹底的に考え、既成概念にとらわれず、常に次代を見据えチャレンジできる“考え方”と“行動力”を身につけます。

VECではメンバーがグループに分かれ、それぞれがデータの収集やマーケティング活動などを行い、事業性・実現性・独自性を盛り込んだ事業戦略を考えています。初めての体験であるにもかかわらず、積極的に取り組む姿が見受けられ、VECのメンバーを中心に学内でプレゼンテーションも実施しています。



大学生によるビジネスプレゼン大会

平成16年８月１日、他大学の学生も交えて「大学生によるビジネスプレゼン大会」を実施しました。本学からは、VECの中から選ばれたグループが出場し、「オンラインコミックレンタル事業計画～インターネットを活用したレンタルビジネスの可能性～」というテーマで発表しました。



本学VECを代表してプレゼン大会で事業計画を発表したメンバー

VECメンバーの声

８月のビジネスプレゼン大会に、VECを代表して出場させていただき、非常に良い経験となりました。事業計画を立案するのは初めてのことで戸惑うこともありましたが、自分一人では考えつかなかったことがグループで取り組むことによって新しい考えとして出てくるため、楽しく取り組めました。大会直前には、話が弾んで徹夜をしたこともしばしばありました。これからも、様々なことにアンテナを張り巡らせて、問題意識を持ち続けたいと思います。

国際学部４年次生　前田　真一

アントレプレナーレッスン

ベンチャー企業社長による実学経営者育成講座。

ニュービジネスやニッチビジネスを世の中に送り出し、株式公開を果たした上場企業の経営者を講師にお招きしています。自らのビジネス体験や最前線のビジネスをテーマにした講演では、“これからのビジネスチャンスをつかむには、今、何をすべきか”をお話しいただいています。

これまでのアントプレナーレッスンの実施風景

アントレプレナーレッスン参加者の声

私は将来独立したいと考えているため、経営者の生の声を間近で聞けることは非常に刺激になります。アントプレナーレッスンでは講師のかたの体験談や苦労話など、日常なかなか聞くことのできない内容が盛りだくさんで、今まで気がつかなかった物事の考え方を学ぶことができ、大変役に立っています。

経営科学部１年次生　岡村　雄馬

今年度実施したレッスン

第１回

「情報化社会におけるITビジネス～セキュリティビジネスの最前線～」

イーディーコントライブ株式会社
代表取締役社長　山口征浩氏

第２回

「事業戦略と株式上場 ～創業から２年半で大証ヘラクレス（旧ナスダックジャパン）への上場シナリオ～」

ビービーネット株式会社
代表取締役社長　田中英司氏

第３回

「ソリューションビジネスとは何か？～サービスの水道哲学を実現するニッチビジネス～」

株式会社エフアンドエム
代表取締役社長　森中一郎氏

第４回

「キャラクタービジネスのオンリーワン企業を目指して」

株式会社エスケイジャパン
代表取締役社長　久保敏志氏

ラクロスとともに
～大阪学院大学OBが語る～

～ 座談会出席者 ～（順不同）

吉田　秀一　国際学部 平成８年卒業
富士通テン株式会社勤務
なにわラクロスクラブ所属　元ラクロス日本代表選手

片山　邦雄　国 際 学 部　教授　広報部長（司会）

小倉　康三　企業情報学部　教授　広報部長代理

三輪　信哉　国 際 学 部　助教授　ラクロス部 顧問（進行）

花谷　晋介　経済学部３年次生　男子ラクロス部 主将

白石　有季　国際文化学科２年次生　女子ラクロス部 主将

［片山］　今回は、本学ラクロス部のOBで、元日本代表としても活躍された吉田さんに名古屋からお越しいただきました。進行はラクロス部の顧問をされている三輪先生にお願いします。

片山　邦雄
国際学部 教授
広報部長（司会）

［三輪］　よろしくお願いします。本学のラクロス部は、吉田さんたちの世代が立ち上げられたのですよね。

［吉田］　私の先輩が同好会として発足され、２年目に私が入部しました。

［三輪］　そうでしたね。そのころのラクロスは、全国的にはあまり知られていないマイナーなスポーツだったと記憶していますが……。

三輪　信哉
国際学部 助教授
ラクロス部顧問（進行）

［吉田］　はい。私が入部する ４年ほど前に、慶応義塾大学の学生たちが日本にラクロスというものを紹介し、そこから始まったスポーツですから、日本で知っている人は少なかったと思います。大阪学院大学のラクロス部というのは、関西でも一番古い草分け的な存在といえます。

［三輪］　最初は同好会で始められてクラブに昇格されたわけですが、同好会とクラブでは大きな差があり、ずいぶんと悩まれていたように見受けられましたが。

［吉田］　そうですね。最初は同好会でしたので、大学のグラウンドで活動することができず、練習は淀川の河川敷で、朝の６時半ぐらいからそれぞれが集まって練習していました。ゴールなどの用具も電車に積んで通っていましたね。

［三輪］　本学には多くの体育会系クラブがありますが、ラクロスを選ばれた理由はどのようなものだったのですか。

［吉田］　私は中学まで野球をやっていたのですが、高校時代はクラブに所属していませんでした。大学に入学して、野球部やスキー部など、どのクラブに入ろうかと悩みましたが、大学から始めても活躍できるスポーツ、しかも新しいスポーツということでラクロスを選びました。

［三輪］　ラクロスがどんなスポーツかをお話しいただけますか。

［吉田］　ラクロスは北米のインディアンの部族が始めたスポーツだといわれています。フィールドはサッカー場ぐらいで、ゴールが少しエンドラインから前に出ています。アイスホッケーのフィールドをイメージしていただけると分かりやすいと思います。このフィールドの中で10人対10人で行うスポーツです。

１ゴール１点で、試合は１クオーター20分の４クオーター制で行われます。攻撃するアタック、中盤でゲームを作るミッドフィルダー、守備のディフェンス、ゴーリー（キーパー）といったポジションがあります。

ラクロスは、先端に網の付いた「クロス」と呼ばれる棒でパスをしたり、相手のボールを落としたり、落ちているボールを拾ったりしながら相手ゴールまでボールを運び、シュートします。

［三輪］　ラクロスの醍醐味を教えていただけますか。

［吉田］　クロスを使って相手が持っているボールを落とすために接触するかなり激しいスポーツです。当然、ヘルメットやグローブなどの防具を付けないと危険ですし、外国人選手になると150キロぐらいの速度のシュートを打ってきますので、そういう点で格闘系の球技だといわれるのでしょう。私はそれが大きな醍醐味だと思っています。

［三輪］　日本ではまだマイナーなスポーツだといわれていますが、世界的にはどうなのですか。

［吉田］　日本での競技人口は男女合わせて１万人ぐらいだと思いますが、約８割が学生です。約２割が社会人などの競技者で、組織自体もすべてボランティアが運営しています。

発祥の地であるアメリカでは、100年以上前から行われていたようです。また、オーストラリアも長い歴史を持ちます。ヨーロッパに関しては日本と同時期に広まり、最近では韓国や香港、中国などでも人気が出ているようです。

４年に１度、ワールドカップが開催されるのですが、日本チームが正式参加したのが３大会前、1994年にマンチェスターで開催された大会です。私自身は98年のボルチモア大会と2002年のパース大会に出場しました。94年は最下位でしたが、パース大会では５位に入りました。ディビジョンが分かれているのですが、初めて上のディビジョンに昇格しました。わずか20年の歴史で世界に通用するラクロスができたということで、世界からも注目を浴びています。

吉田　秀一
国際学部 平成８年卒業
富士通テン株式会社 勤務
なにわラクロスクラブ所属
元ラクロス日本代表選手

［三輪］　ご説明ありがとうございました。それでは今度は少し大学生活の話も聞かせてください。吉田さんは国際学部をご卒業されましたが、国際学部を選ばれた理由を教えていただけますか。

［吉田］　漠然とですが外国に興味がありましたので、外国の文化を学んだり、国籍を越えたいろんな人と交流したいと考え、国際学部を選択し

ました。

［三輪］ その願いはラクロスを通じてさらに大きくかなえられたといえますね。

［吉田］ そうですね。ラクロスは国際交流という意味ではすごいスポーツだと思います。コミュニティーが小さいので、アメリカやオーストラリアでクロスを持っていると「君はラクロスをしているのか？」と声をかけられ、それをきっかけに交流が始まります。私にとってラクロスは国際交流という点でもプラスになりました。

［三輪］ 国際学部での勉学とラクロスを両立されていたのですね。吉田さんがラクロス同好会に入られたときは強豪というわけではなかったですよね。

［吉田］ はい。当時は２部に分かれており、大阪学院大学は２部の最下位で低迷していました。私がキャプテンのときに２部で５位になり、翌年には１部に昇格しました。

［三輪］ 急ピッチで成果を挙げたのですね。

［吉田］ そうですね。ラクロスは経験者が少ないため、どこの大学もスタートラインは一緒です。強くなる秘訣は、ラクロスに対する姿勢がいちばん大きいと思います。いかにラクロスに対して情熱を注げるか、時間を費やして好きになれるかという気持ちが強いチームほど強いと思います。

［三輪］ 猛スピードで飛び交うボールを相手ゴールまで運ぶのにはかなりのチームワークが必要だと思いますが、どのようにチームをまとめられたのですか。

［吉田］ 私は４年次生のときにキャプテンをさせてもらいましたが、当時はラクロスに対する部員の意識の差が大きく、ラクロスだけやっているという人もいれば、片手間にやっている人もいました。私がキャプテンになったときは、まず、私のラクロスに対する考え方に賛同してもらおうと思いました。

多少強引なやり方でしたが、練習方法から最終的な目標までを説明し、「もしついていけない人がいたら申し訳ないけど辞めてもらってもいい」という強い気持ちで最初に話をしました。批判もありましたが、最終的にはみんなが私の方針に賛同してくれました。

［三輪］ 当時、同好会からクラブに昇格するには大変な労力がかかったのではないですか。

［吉田］ はい。今考えると、大変おこがましいことをしたと思うのですが、５年目で同好会から体育会に昇格するということは、それまでの大阪学院大学の歴史では皆無で、やはり私たちの熱意や思いが皆さんに伝わり、皆さんの協力で昇格できたのだと思っています。

これは、今でも通じることだと思いますが、「やればできる」ということです。伝統や歴史は当然ありますが、まず行動を起こさないと実現はできません。私が大学生活の中で得たことでいちばん大きいのは、強い熱意を持っていれば何事でも実現するということですね。

［小倉］ ラクロス部は新入生勧誘のときに大勢の学生が集まって非常に盛況で人気があるスポーツだという印象が強いのですが、プロスポーツになる可能性はあるのですか。

［吉田］ 日本ではまだまだマイナーなスポーツですから、プロ化への動きはまだないと思います。カナダでは国技として親しまれており、ボックスラクロスというインドアでやるラクロスのプロリーグが15年ほど前からあります。４年前にはアメリカの東海岸を中心に、メジャーリーグ・ラクロスというアウトドアラクロスのプロリーグが発足しました。とは言っても、地区は限定されていて、アメリカでもまだマイナーなスポーツです。しかし、技術的はどんどん上がってきていますね。

日本は全員がアマチュア選手なので、追いつくというのは非常に難しいことだと思いますが、アメリカのメジャーリーグ・ラクロス発足のとき、私もスカウティング・コンバインというドラフト前のトライアウトに日本人で初めて挑戦させてもらいました。近いうちにアメリカで日本人のプロ選手が生まれる可能性はあります。

私がオーストラリアに半年ほど留学したときに感じたのですが、スポーツに対する意識が日本は残念ながら低い。どうしても仕事中心の社会で、スポーツはあくまでも趣味のレベルであり優先順位が仕事になりがちですが、アメリカやオーストラリアではスポーツは文化、生活として根づいています。

日本でラクロスのプロリーグができるのが夢なんですが、10年や20年では厳しいのが現実で、非常に残念です。

［三輪］ 留学はラクロス主体で行かれたのでしたよね。

［吉田］ はい。大学を卒業して就職し、社会人３年目で98年にワールドカップに出場できました。２部リーグながら、失点率とセーブ率で世界１位になることができましたので、さらに自分の力をラクロスで試してみたいと思い、27歳で会社を退職し、オーストラリアにラクロス留学しました。そのときに強く考えたのは「後悔したくない」ということです。一度きりの人生なので、このまま仕事を続けて40歳、50歳になってから後悔するよりも、今できること、しかも自分の力を試せることがやりたかったのです。

そこで気付いたのは、生活の違いです。強烈な感銘を受けました。「人生の哲学」といったらオーバーかもしれないですが、ラクロスを通じて受けることができたということは大きいと思います。

［三輪］ どういうところに感銘を受けられたのですか。

［吉田］ まず、家族を大事にするとともに、仕事や自分の時間を大切にすることです。彼らのスタイルは、基本的には朝から仕事をして夕方５時には帰ってきます。それから地域にはクラブハウスというのがあるのですが、そこで各自が好きなスポーツをする。練習が終わった後には、クラブハウスのバーで仲間と一緒に一杯やりながら過ごして家に帰る。そういう生活の繰り返しなんです。

これが、学生時代の留学であればそこまで強く感じられなかったと思うのですが、社会に出て４～５年たったときでもあり、時間に追われて仕事をしている感じもあったので余計に強く感じたのかもしれません。

［小倉］ ラクロスを通して素晴らしい人生の経験を積まれたのですね。

小倉　康三
企業情報学部 教授
広報部長代理

［吉田］ そうですね。これまでの５年間は、すべてラクロスを通してなのですが、本当に凝縮したよい経験ができたと思います。特に人との素晴らしい出会いがたくさん経験できました。人との出会いというのは、ラクロスというスポーツのいちばん大きな魅力だと思います。

［三輪］ これまでは本当に突っ走って来られたという感じがしますが、これからはどのような活動をされるのですか。

［吉田］ 私自身は生涯スポーツとしてラクロスをやっていきたいと思っています。昨年・一昨年は、U21（21歳以下）代表のコーチとして遠征に行きましたが、今後は、代表の強化にも携わっていきたいです。そして、地域でラクロスを根づかせる。将来的には、自分の子どもたちにもラクロスをやらせたいという夢はあります。

［三輪］ 後輩から先輩に何かお聞きしたいことはありますか。

［花谷］ U21代表コーチのお話が出ましたが、今のラクロス部は大半が学生主体の活動です。私は４月から最上級生になるので、後輩たちにどのように教えていくべきかということと、吉田さんはいちばん何を重視して教えておられるのかというのを聞かせていただけますか。

［吉田］ 私が代表で教えるときは、技術的な部分の指導が中心になります。でも、大学生の先輩が後輩たちを指導するときは難しいことを教えなくてもよいと思います。何を教えるかというと、ラクロスに対する姿勢です。私がいつも言っているのは、「スポーツに対する姿勢をいかに大切にするか。いかにラクロスを好きになれるか」というところです。まずそれがあって、どうやったら上手くなれるのかというのは、自然と芽生えてくると思います。だから、そこをしっかりと後輩たちには教えてあげてほしいです。

［花谷］ はい。

［三輪］ 熱意がすごいですね。女子ラクロス部は、華麗な感じもしますが、白石さんどうですか。

［白石］ 防具やヘルメットを付けないので華麗というイメージを持たれがちですが、やはり激しいスポーツです。

［吉田］ 今、白石さんが話したように、見た目よりはかなり激しいスポーツですね。20分間フルに走りっぱなしでやるスポーツですし、鼻にクロスが当たって骨折するということはよくあることです。ラクロスに対する姿勢というのは男子も女子も変わらないと思うので、そこは大事にしてほしいと思います。

［白石］ もうすぐ新入生の勧誘の時期ですが、ラクロスを知らない人も多く、インパクトを与えたいと思います。何か効果的な方法はないですか。

白石　有季
国際文化学科 ２年次生
女子ラクロス部主将

［吉田］ 今は外国のビデオやDVDなどラクロスに関する情報がたくさんあるので、まず見せてあげる。そして実際クロスを持たせてキャッチボールなどを行い、体感させることが、やっぱり大事なことじゃないかと思います。

［花谷］ これまでの話を聞いて同好会から体育会に昇格させたり、会社を辞められて海外に留学されたりするなど、行動力がすごいと思います。頭では思っていてもなかなか一歩を

踏み出せないと思いますし、それを続けていける人は素敵だと思います。海外に留学されたときに後悔は全然なかったですか。

［吉田］ 確かに悩みました。すると「ラクロスとは自分にとって何なのか」いうところに行き着いたんです。結局は自分のためだと思います。ラクロスをして収入が増えるとか社会的地位が上がるとかというものではないですから……。そうではなく、本当に今表現できることが自分にとってはラクロスだったということです。40歳、50歳になったときにその当時の気持ちがあるかといったら多分ないだろうと考えました。この気持ちを抑えて、このままずっと生活し、後悔するのは自分の中ではっきり見える部分であり、それだったら今できることを、逆に今しかできないことをやろうと思いました。その意志が多分勝ったんでしょうね。

［花谷］ 私も、今年で４回生になり就職活動を始めますが、ただ就職したいからということで会社を決めるのではなく、吉田さんみたいにラクロスとは違うかもしれないですが、自分の意志をしっかり持って行動したいです。

花谷　晋介
経済学部 ３年次生
男子ラクロス部主将

［三輪］ 吉田さんから学生諸君全般になにかアドバイスはありますか。

［吉田］ 卒業して10年たって思うことは、大学の授業は本当に今の仕事に役に立つことばかりであるということです。当時は授業を受けないと仕方ないから受けていたというところが多かったと思いますが、今になって大学の授業は受けられるものなら受けたいなとすごく思います。

私はたまたまラクロスという熱中できるものが見付かりましたが、別にクラブだけじゃなくて、勉強でもいいでしょうし、何か一つ自分の熱中できるものを見付けられれば幸せだと思います。それが何かというのは、それぞれ違うんでしょうけど……。

仕事・ラクロス・家庭という中で、普通の優先順位だと、仕事が最初にあって家庭があって趣味となると思うのですが、私にとっては、優先順位というのは全部同じなんです。

私は今、富士通テン(株)という会社でカーオーディオのECLIPSE（イクリプス）の営業をしています。平日は当然朝から晩まで仕事をしています。週末は、その分しっかりとラクロスをやる。そして、家に帰れば家庭を大事にしたいという気持ちがあるので、それぞれ、その時々に一生懸命やっていきたいと思っています。

逆に、ラクロスをやっているから仕事がおろそかになるとか、仕事を一生懸命やっているからラクロスがおろそかになるというのは私の中では、言い訳の種になってしまうんです。だから、それぞれがあるから頑張れるというような意識で今は生活しています。

［三輪］ 最後にラクロス部の後輩に向けて一言お願いします。

［吉田］ サッカーや野球、アメリカンフットボールなどと比較して、ラクロスは明らかにコーチという存在がまだ数少ないです。ただ、これは逆にすごくよい経験になると思います。自分たちが上の立場になって、後輩たちを指導していく。どうしたら組織として強くできるか。出てきた問題に対してどうしたら解決していけるかというのを、自分たちの力で乗り越えていかなくてはいけないクラブだと思います。

人に頼るというのも大事だと思いますが、自分たちで作り上げていく、自分たちで何かを形作っていくという点では、絶好のスポーツだと思います。コーチがいないから強くならないとか、コーチがいないからできないということではなく、逆にそれをプラスにとって活動していったら、社会に出て絶対に役立つと思います。

受け身ではなくて自分からやる。何か行動を起こすということは、すべてに通じてくると思うので、頑張ってみんなで一緒に作り上げていくという部分を大事にして、ラクロスをやってほしいなと思います。

［花谷・白石］ 頑張ります。

［片山］ 本日はお忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。一人でも多くの学生が、吉田さんのように何か一つ熱中できるものを見付けてほしいと思います。

CAMPUS LIFE

作ることの楽しさ

経済学部２年次生
内亀　祐平

SPOT

私がモーターで動く模型を作るようになったのは小学生のころからです。ブルドーザーの工作セットを買い、自分で組み立てたのがきっかけでした。完成品からは味わえない、自分で組み立てることのおもしろさに夢中になりました。

中学生のとき何かを作りたくなり、いろいろと考えているうちにラジコン雑誌に掲載されていた記事を思い出しました。それは、アメリカでのラジコンを自作しており10分の１の「エイブラムス」という戦車を製作中という内容でした。外国では大型のラジコン戦車が欲しい場合は、買うのではなく自作するかたもいるのですが、すべて自分で作るのは大変難しいことだと書かれていました。しかし、私もラジコン戦車を作ってみたいと思い、中学３年生の夏休みに90式戦車の製作に取りかかりました。“キュウマル”の愛称で親しまれるこの戦車を選んだ理由は、日本の最新式戦車だということや、平面が多いため木材で製作するのに適していると考えたからです。スケールは市販されているものよりも大きなものを作りたかったので10分の１にしました。作るからには完璧にしたいと思い、いろいろな本を読んで戦車の構造を調べました。35分の１のプラモデルや写真を参考にしながら図面を書き、まず車体下部から作ることにしました。材料は加工のしやすいベニヤ板を使用し、車体上部や砲塔も同じくベニヤ板で製作しました。しかし、ロードホイールやそれを固定するアームの部分の製作が難しく、ラジコンで走行できるようにするところまでには至りませんでした。

その後、大学生になった私はもう一度挑戦してみようと思いました。ロードホイールの製作は何枚もベニヤ板を貼り合わせて作り、キャタピラやそれを回転させるスプロケットもなんとか製作することができ、ギヤボックスや受信機などを搭載してやっとラジコンで動かせるようになりました。この戦車は、前後進と左右旋回、砲塔旋回、砲塔上下ができます。戦車は平面で構成されているので、車体などは自動車などに比べて作りやすいのですが、付属品が大変多く、それらの製作に時間を費やし、ほぼ完成させるまでに５年間もかかってしまいました。ここまでできたのは両親の理解と応援してくださったかたがたの励ましの言葉があったからだと思います。

全長976mm、全幅343mm、全高234mmの模型

この作品（木製90式戦車）は、平成15年11月に静岡県下において（株）タミヤの主催する「タミヤフェア2003」のタンクミーティングに特別参加し、多くのかたがたに見ていただくとともに、平成16年７月には同社が発行するタミヤニュース８月号（発行部数 約13,000部）に掲載されました。

また、平成16年10月には陸上自衛隊日本原駐屯地のイベントでもこのラジコン戦車を走行させ、見学者などから絶賛されたことが大変よい思い出になりました。

将来は、この経験を生かせるような模型に関する仕事にぜひ携わりたいと思っています。

新春夢トーク

— 発表者 —

経 済 学 部　西川　雅人　　硬式野球部所属：投手
「大学野球で得たもの」

国 際 学 部　岡崎　　聡　　夢を実現させよう：採用者
「モンゴルについて」

国 際 学 部　辻　　景子　　フリーアート部所属・文化会本部総務部長
「大学生活で得たもの」

流通科学部　秦　　拓馬　　釣部OB
（卒業生）　「バスプロ世界チャンピオン」

大学野球で得たもの

西川　雅人（経済学部４年次生）
硬式野球部所属：投手
２年次に平古場賞を受賞・152kmの直球がプロの世界から注目され、卒業後は 三菱重工神戸への所属が決定

私と野球の出会いは小学３年生のときに名門のボーイズリーグに所属したことから始まります。そこは、甲子園出場高校とのつながりもあり、遠方でしたが週２回２時間以上をかけて通っていました。しかし、親や周りの協力もむなしく、人間関係がうまくいかず、野球をやめたいと思う辛い時期がありました。その後、別のチームに移ったのですが、やはりそこでも傷つき苦しい経験をしました。

高校では硬式野球部に入部し、そこではバッティングを買われ、野手に転向したのですが、試合に出ても結果が出せない状況が続き、期待に応えられない自分を責め続け、退部することにしました。その後、私は軟式野球部に入部したのですが、あまりやりがいを感じることはできず、高校３年生になり心の奥底で「もう一度、第一線で野球をやりたい」と思うようになりました。そのときに先生に声をかけていただいたことがきっかけで、大阪学院大学に進むことになりました。入学時、私の球速は136kmしかなく、「絶対あきらめない、球速の追求、プロへの道」といくつかの目標を立て、努力の結果、２年次には球速が144kmとなり、優秀な成績を収めた投手に与えられる平古場賞（ひらこばしょう）を受賞することができました。しかし、もっと速い球を投げたいと無理をした私はわき腹をけがしてしまい、これがなかなか完治せず、３シーズンを棒に振りました。

2004年に転機が訪れました。トレーナーとの出会いです。トレーナーはマンツーマンでストレッチや自分の持つ不安やいらだちを受け止めてくれ、4年次の春季リーグでは不本意な成績ではありましたが、プロからのスカウトもありました。シーズン終了後、実戦経験が少なかった私は社会人野球に進むことを決め、そこで経験を積み、プロの世界へ飛び込むことを決意しました。今では152kmの球速ですが、アマチュア最速を目指し、「社会人ナンバーワン・ピッチャー」と呼ばれるようになるために努力を重ねていきたいと思います。

夢を持っている人、探している人は一度の失敗であきらめないでください。「こうありたい、こうなりたい」と強く願い続ければ、やり直すことはできるし、成功者はみんな努力していることを忘れないでください。

モンゴルについて

岡崎　　聡（国際学部４年次生）
夢を実現させよう：採用者

国際学部で学んでいる私は、大学の授業で世界中の地域・民族に興味を持つようになりました。そこで、2003年と2004年の夏に、大学の奨学金を利用して、２か月間モンゴルへ馬の手綱や馬具などについての研究に行きました。モンゴルはウランバートルに首都があり、日本の約４倍の面積（156万km²）に約252万人が住む、世界で最も人口密度が低い国です。ウランバートルの街並みはのどかで、草原に浮かぶ島のようになっており、車で30分ほど走ると地平線が見える丘陵地帯、１時間も走ると山がちな土地が多くなります。さらに走ると、岩がちで変化に富んだ地形となり、やがて砂漠となります。砂漠とは水の少ない所を意味しますが、過酷な地形でも生活はでき、人々はゲルという移動式住居に住み、井戸で水をくみ家畜を育てています。

近年、水くみにはバイクや自転車を利用したり、住居にはテレビがあるなど、近代化が進み、家畜にはらくだ・やぎ・羊・牛・馬などがいて、すべては食用とされています。それぞれに特徴があり、らくだは暑さ寒さに強く、過酷な環境にも耐え、荷物を積んだり移動手段となります。やぎは食用以外にもセーターの原料となり、最近はモンゴル産が増えています。

このように私は、授業やテレビなど様々なきっかけからモンゴルに興味を持ち、自分なりに研究ができ、充実した大学生活を送ることができました。

最後になりましたが、この会場におられるたくさんの学生に伝えたいことは、始めることに遅すぎることは絶対にないので、何事にも挑戦してほしいと思います。

大学生活で得たもの

辻　　景子（国際学部４年次生）
フリーアート部所属・文化会本部総務部長
西日本旅客鉄道株式会社内定

私が大学時代において誇れることは、とても充実した大学生活を送れたことです。私は大阪学院大学に入学してから、クラブ活動・文化会本部・教職課程・日本語教員課程・海外インターンシップと様々なことにチャレンジしました。それには「私自身大きく成長すること」という一つの目標がありました。大阪学院大学には、自分のやりたいことに集中している人も多く、恵まれた環境でやればやるほど評価してもらえる大学だと思います。また、自分が何をやりたいかまだ見付からなくても、整った環境を活用すればやりたいことは必ず自分の中で見付かると思います。私は海外インターンプログラムのことで友達・先輩に相談にのってもらい、多くのかたがたにサポートしていただいて大きく成長できたと思います。特に、海外インターシップで多くの人と出会ったことが自分の中で大きな糧となっています。

また、私は環境問題の勉強をしたかったのですが、自分一人では何もできずにいたところ、先生がたとの出会いがあり、今は吹田市役所のアジェンダ21すいた策定会議で「地域を巻き込んだ学校でのごみ教育・食育プロジェクト」を考案して、中間発表会をすることができました。「分からないことを尋ね、教えてもらい、考え、行動に移す」ことは、一人ではできないことであり、そこでは、大切な仲間や支えてくれた人に感謝することが大切だと気付きました。

みなさんもこれから夢に向かって、興味のあることに集中して、失敗してももう一度チャレンジして欲しいです。

バスプロ世界チャンピオン

秦　　拓馬（平成16年 流通科学部卒業）
釣部OB
在学中からトーナメントプロとして大会に出場、世界大会優勝。全日本学生釣魚連盟の連盟長を歴任し、現在JBエコワールドプロとして活躍中。

私は10歳のときにブラックバスという魚に出会い、13年間釣りを続けています。18歳まではアマチュアトーナメンターとして様々な地域の大会に出場し、日本バスプロ協会からプロ認定を受け、2004年はエコワールドプロとして活動してきました。子どものころからの夢であるバスプロになるという夢は実現したことになります。

私は大学時代、体育会釣部に所属していました。釣りは野球などと違い個人競技なのですが、やはり人とのコミュニケーションも大切で、団結心が欲しかった私たちは“俺達Ｔシャツ”を作りました。これが、今考えると部員の気持ちを一つにすることに成功した秘訣だと思います。また、個人としては、企業スポンサーが付き、大会をサポートしてもらっている状況で、世界チャンピオンになることができました。

現在、私は琵琶湖で釣りのガイドをしながらスポンサー企業の協力を得てバスプロとして大会へ出ています。今後は、国内のトーナメントや海外の大会にどんどん出場したいと思います。

釣りは地味だけれども頭を使うスポーツです。私は負けず嫌いだったから、だれにも負けたくないという気持ちがありました。負けないためには自分に自信を持つ。そうすれば結果はついてきます。練習をしてだれにも負けない自信をつけてください。昨年、私の考えた釣り方がブームになり雑誌・新聞・テレビに載りましたが、一心に練習していると自分で進む道で何が必要か見えてきます。色々な発見、進まないといけない道を作っていくのには練習に勝るものはなく、すべて練習が導いてくれるのです。

今年の私の目標は、自分の戦いの場を広げるためにアメリカに行くことと、外来魚問題で低下しているバス釣りのイメージの向上、さらにみんなが楽しめる影響力のあるプロを目指すことです。

CLUB ACTIVITIES

CLUB ACTIVITIES

書　道　部

私たち書道部は、現在12名の部員が活動しています。主な活動内容は年３回行われる展示会です。岸辺祭期間中の学内展、吹田市立岸辺市民センターで地域の住民のかたと交流を目的に行う学外展、そして関西学生書道連盟による展示会です。

ふだんは週２回のミーティングと練習を行っていますが、授業の空き時間なども部室に集まり、みんなで楽しく自主的な活動をしています。展示会の前になると夜遅くまで準備をして、きてくださるお客様に満足していただけるよう部員一同頑張っています。また、今年は書道に興味を持った留学生が部員として一緒に活動しています。学外ではなかなか外国人と交流する機会が少ないですが、クラブ活動を通じて留学生と接することができ、とてもいい機会だと思います。さらに、関西学生書道連盟に属する近畿大学、樟蔭女子大学とともに展示会を行い、合宿、親睦会なども行い、他大学との交流も深めています。

部員一同よい作品を作れるよう日々練習をし、頑張っていますので、ぜひ展示会に足を運んでみてください。

法学部３年次生　橋本　政俊

第43回岸辺祭学内展、展示の部　優勝

6月17日(金)～19日(日) 岸辺市民センターにて学外展を開催いたしますので、ぜひお越しください。

CLUB SCHEDULE

CLUB SCHEDULE

体育会系クラブ

クラブ名	日程	行事・大会名	場所
アイスホッケー部	4月中旬～下旬	大阪谷カップ	上野芝アイススケートリンク
アメリカンフットボール部	4月～7月	関西学生アメリカンフットボール連盟西日本大会	王子スタジアム ほか
空手道部	3月下旬	全関西学生空手道選手権大会	未定
	4月上旬	川西市大会	川西市立総合体育館
剣道部	4月	大阪学生剣道選手権大会・大阪学生剣道女子選手権大会	未定
硬式庭球部	3月	関西学生地域テニストーナメント	各大学テニスコート
	4月中旬	関西学生春季テニストーナメント（予選）	各大学テニスコート
硬式野球部	3月下旬～5月下旬	関西六大学野球連盟春季リーグ戦	西京極球場・南港球場 ほか
ゴルフ部	3月14日(月)～3月16日(水)	Dr.Donnis Thompson Invitational	KANEOHE KLIPPER GOLF COURSE (Marine Corps Base,Hawaii)
	4月初旬	関西学生男子連盟杯予選	未定
	4月中旬	関西学生女子連盟杯	未定
	4月下旬	関西学生男子連盟杯	未定
サッカー部	4月初旬～5月中旬	関西学生サッカー春季リーグ（1部）	各競技場
スキー部	3月中旬	全関西学生スキー選手権大会	未定
ソフトテニス部	4月下旬	関西学生ソフトテニス春季リーグ戦(男子3部・女子5部)	福知山（未定）
日本拳法部	4月	西日本学生拳法選手権大会	未定
バスケットボール部	4月23日(土)～5月5日(木・祝)	関西学生バスケットボール選手権大会	東淀川体育館・なみはやドーム ほか
ハンドボール部	4月上旬～	関西学生ハンドボール春季リーグ戦（4部）	未定
バレーボール部	4月～5月	関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦(男子2部・女子5部)	各大学体育館
フェンシング部	4月下旬	関西学生フェンシングリーグ戦（2部）	大山崎体育館
洋弓部	4月	関西学生アーチェリーリーグ戦(男子2部・女子2部)	未定

※現在未定の行事や大会につきましては、詳細が決まり次第、随時ホームページでお知らせします。
http://www.osaka-gu.ac.jp/club/index.html

保健センターだより

BMIって知ってる?

BMIとは

BMI（Body Mass Index）とは、体重と身長を計測し、そのバランスから肥満度を調べる指数で22が基準値とされています。BMIは国際的な指標であり、日本肥満学会でもBMIを基に肥満の度合いを示しています。

日本肥満学会によるBMIの数値と肥満の基準

BMI値	肥満の度合い
18.5未満	やせ
18.5以上 25未満	適正
25 以上 30未満	肥満（1度）
30 以上 35未満	肥満（2度）
35 以上 40未満	肥満（3度）
40 以上	肥満（4度）

★BMIが25を超えたら
高血圧症
高中性脂肪血症
高コレステロール血症
糖尿病
などの生活習慣病にかかりやすくなります。

あなたもBMIを計算してみませんか!?

求め方

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)}^2$$

例えば 身長180cm、体重90kgのかたの場合　$90 \div 1.8^2 \fallingdotseq 27.8$
BMI値は 27.8 となり、肥満度は 1 となります。

では、この人にとって標準体重はいくらでしょう？
求め方
標準体重 ＝ $1.8^2 \times 22$
標準体重は 71.3 kg となります。

目指せ、BMI 25 未満！

（1）運　動　一日 30分の早足歩き
運動することで基礎代謝量が増加し、エネルギーを消費する体になります。

（2）カロリー制限　腹八分目を目安にして夜の食事は控えよう
体にたまっている脂肪は1kg で約7,000 kcal のエネルギーになります。
一日の食事から500kcal減らすと、14日間で脂肪1 kg 減らすことができます。

（3）早食いは禁物　一日3食よくかむ
よくかむことによって血糖値が上がり、満腹中枢が刺激されて満腹感が得られます。

CAMPUS NEWS DIGEST

就職ガイダンス

〔11月13日(土)・20日(土)　２号館地下１階02教室〕

企業から内定を得た学生に集まっていただき、内定者体験談報告会を開催いたしました。大学３年次生・短大１年次生の学生を中心に約200名の参加がありました。

《内定者の体験談》

・２月から３月にかけては、各社で行われる会社説明会への参加を中心に活動し、４月以降の採用選考においては、スケジュールの調整で体力的にも精神的にも非常に疲れた。
・途中で就職活動をやめようと思うこともあったが、「焦らず、慌てず、あきらめず」に継続した結果、複数の企業から内定を得ることができた。
・就職活動は、自分から主体的に動かないと何も始まらない。自分で考えて自分で行動することが大切だと感じた。
・選考段階におけるエントリーシートの重要性、ＳＰＩ対策の必要性、面接態度（明るく、はっきりと自分の意見を述べること）が活動のポイントである。
・最終面接で落とされるケースが増加しているので、最後まで気を抜かないこと。

これから就職活動を始める大学３年次生・短大１年次生の皆さんは、この貴重な教訓を胸に前向きな姿勢で就職活動にチャレンジしてください。

流通科学部講演会
SMALL BUT EXCELLENTをめざして

〔11月17日(水)　２号館地下１階02教室〕

アートコーポレーション株式会社の寺田千代乃社長に、創業から現在までの会社の軌跡と経営について語っていただきました。

おなじみの電話番号「0123」統一や「走る防虫サービス」など、従来にない斬新なサービスを実施してきた企業内容に、学生は大変興味深く聴き入っていました。

参加学生から「数々のアイデアはどのように生まれるのか」という質問に対し、自らはもとより、社員からの提案制度に拠るものが多く、社員が一丸となって企業の成長を支えているというご回答をいただきました。

大阪学院大学 法科大学院開設記念 国際シンポジウム

〔11月27日(土)　15号館地下１階01会議室〕

法科大学院開設を記念して海外から法律学者・実務者を招聘し、国際シンポジウムを開催しました。

まず、午前中は、元最高裁判事であり弁護士でもある園部逸夫氏による基調講演を行い、「日本の新しい法曹の実現には、どのように法曹養成をすべきか」という問題について講演をいただきました。 午後からは、法曹教育に力を注いできたイギリスやアメリカ、法治国家の確立に向け近年力を注ぐ中国から法律学者・実務家をお迎えし、本学の教員も交えたパネルディスカッションを行いました。

様々なテーマについて約４時間にもわたる議論が交わされ、盛況のうちに終了いたしました。

プログラム	講演者・パネリスト
基調講演	園部　逸夫 氏（弁護士・元最高裁判事）
パネルディスカッション	園部　逸夫 氏（弁護士、元最高裁判事）
	W.S. キリミツ 氏（ハワイ大学副学長・元ハワイ州高裁判事）
	J. アリソン 氏（ケンブリッジ大学クイーンズカレッジ教授）
	舒　揚 氏（広州大学副学長・教授）
	田邊　光政 氏（大阪学院大学法務研究科教授）

イルミネーション

〔12月１日(水)～12月25日(土)〕

キャンパス内の木々に光を灯し、イルミネーションの点灯を行いました。期間中、スペシャルイベントとして、学生によるミニコンサート、ホットドリンクサービス、皆様からご応募いただいたイルミネーション写真の展示などを行い、多くのかたがたにお越しいただきました。暗がりに浮かぶ時計台と木々にきらめく光のファンタジーに彩られ、クリスマスムードを盛り上げる素敵な冬の夜となりました。

2004 フェニックスフェスティバル
～The Year End Joyful Concert～

〔12月９日(木)　５号館地下２階アトリウム〕

35周年を迎えたコーラスグループ「タイムファイブ」にご出演いただき、おなじみの名曲からクリスマスソングまで幅広いジャンルの曲目を素晴らしいハーモニーで披露いただきました。

オープニングでは本学のアカペラグループ「Brillante」が美しいハーモニーを披露し、また、キャンパス内のイルミネーションの光が花を添え、大学はクリスマスムード一色の夜になりました。

教養講座

〔12月13日(月)　２号館地下１階02教室〕

株式会社アシックスの創設者である鬼塚喜八郎氏（現 取締役会長）に「転んだら起きればいい～鬼塚喜八郎の体験的企業経営論～」というテーマでご講演をいただきました。

同氏から、熱い志や企業を起こした経緯などが語られ、学生たちに“何事も明確な目標を持つ。そして何を目的にするかが大切であり、尊い目的を持つことが大切である”との貴重なメッセージも残していただきました。会場は約400名の参加者で埋め尽くされ、好評のうちに講演は終了しました。

DEP（Distance Education Program）
公開プレゼンテーション

〔12月21日(火)　２号館地下１階01教室〕

コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱの講義で学んだ成果を披露するためプレゼンテーションを開催しました。

当日は、本学学生や教職員が多数集まり、受講生たちの発表に熱心に耳を傾けていました。スピーチでは、個々の表現力の上達がうかがえ、この日のためにハワイから来日した担当者のドリック・リトル博士も、半年間熱心に指導してきた教え子たちの成長に目を細めていました。

情報学部講演会
インターネットと犯罪 ―弁護士の視点から―

〔１月13日(木)　２号館地下１階02教室〕
　インターネット犯罪に詳しい服部弁護士をお迎えし、講演会を開催しました。不正アクセス禁止法の施行以来、従来は法律に触れないとされてきた友達のIDを利用したインターネットアクセス、他人の名前を使った書き込み、自分のホームページにタレントの写真を掲載することなど、身近な行為でさえも法に抵触するようになったことについて講演いただきました。
　参加者は、インターネット利用に関するモラルを再確認する必要があることを痛感していました。

退職記念講義

谷口 幸男 国際学部 教授
〔１月21日(金)
15号館地下１階01会議室〕

丹羽 春喜 経済学部 教授
〔１月26日(水)
15号館地下１階01会議室〕

　今年度をもって退職される谷口教授・丹羽教授の記念講演を行いました。

　谷口教授「ヴァイキングの足跡をたずねて」
　丹羽教授「正統派的ケインズ主義政策体系の再構築」

　講演の最後には、受講生から花束の贈呈もあるなど、先生がたの退職が惜しまれる様子が伺われました。

プレゼンテーションコンテスト

〔１月22日(土)　１号館地下１階02教室〕
　パソコンを使ってゼミナールや授業での研究成果を発表し、プレゼンテーション能力はもちろん資料の作成技術・構成力を競うコンテストを開催しました。８組14名の学生が参加し、接戦の結果、次のとおりの結果となりました。

順　位	発表者	テーマ
優　勝	斉藤　純子 東尾　真希	フリーターはなぜ増加するのか
第２位	藤田たまき	献血について
第３位	青野みずえ	晩婚化と晩婚化が与える影響

フェニックスセミナー（公開講演会）

〔１月22日(土)　２号館地下02教室〕
　クイーンズ大学の名誉教授で、本学経済学部のR.M.マキニス客員教授に、“The Canadian Economic Development in the Shadow of American Elephant”というテーマで、アメリカという大国の影でカナダがどのように発展していったのかについて講演いただきました。
　北アメリカにおける経済発展の問題について研究し、カナダ経済史の第一人者であるマキニス教授の興味深いお話に、参加した学生や教員から活発に質問が出され、有意義な時間となりました。

DEP（Distance Education Program）公開授業

〔１月25日(火)　２号館１階オープンラボ〕
　本学とハワイを結び行なっている遠隔授業をより多くのかたに知っていただくため、コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱの授業を公開しました。当日は吹田市教育委員会、箕面市教育委員会のかたがたをはじめ多数のかたが見学に来られ、授業内容や遠隔技術について活発な意見交換がなされました。
　受講生たちは、多くの見学者の見守る中、多少緊張しているようでしたが、日ごろの成果を遺憾なく発揮していました。

国際交流プログラム 餅つき大会

〔１月29日(土)　K.M. 36BANCHI〕
　外国人留学生に日本の伝統行事を体験してもらうことを目的に、餅つき大会を開催しました。初めての餅つきを体験した留学生たちは、慣れない手つきも見受けられましたが、次第にうまくつけるようになり、できたての餅をみんなで楽しくいただきました。
　当日は、在学生・外国人留学生・ホストファミリーなど約60名の参加があり、大盛況のうちに終了することができました。

INFORMATION
March～

庶　務　課

卒業式

３月19日(土)

Ⅰ部　10：00 開式	大　　学	経済学部・国際学部・企業情報学部
	大 学 院	経済学研究科・国際学研究科
	短期大学	経営実務科・国際文化学科
Ⅱ部　11：30 開式	大　　学	流通科学部・経営科学部・法学部 外国語学部・情報学部
	大 学 院	商学研究科・法学研究科

場　所：体育館（保護者の皆様も自由にご出席いただけます）
※卒業生は式の30分前までに集合してください。

学　生　課

謝恩パーティー

３月19日（土）　17：00開宴

会　場：リーガロイヤルホテル（大阪）光琳の間
〒530-0005　大阪市北区中之島５丁目３番68号
TEL. 06-6448-1121

対　象：卒業生（平成16年度）

就　職　課

学内会社説明会開催

２月18日（金）～３月３日（木）

２月から学内・学外で本格的な会社説明会が始まります。これが、各企業の人事採用担当者と学生との最初の出会いとなります。本学においては、毎年２月、６月、10月に学内会社説明会を実施しています。エントリーシート、履歴書（自分の思いや自己アピール）の準備とともに企業研究をこの時期にしっかりしておき、４月以降の採用選考に数多くチャレンジすることが重要なポイントとなります。

毎年、学内会社説明会参加企業の中から数多くの学生が内定を得ていますので、積極的に参加してください。

学内公務員説明会開催

３月１日（火）～３月３日（木）

全学生を対象に、学内公務員説明会を実施します。警察、消防や国税局など様々な団体の人事採用担当者が来学され、業務内容や試験のスケジュールなどを説明していただきます。業界研究の一環として、積極的に参加してください。

なお、詳細は就職センター掲示板で確認してください。

TIMETABLE

３月 １日（火）卒業合否発表（大学・短期大学）
後期追試験・再試験受験申込
（大学・短期大学）〔至２日（水）〕
２日（水）修士論文口述試問（大学院　商学・経済学・国際学研究科）〔至９日（水）〕
４日（金）後期追試験・再試験（大学）〔至８日（火）〕
後期追試験・再試験（短期大学）
〔至７日（月）〕
５日（土）後期追試験（法科大学院）〔至６日（日）〕
14日（月）後期追試験・再試験合否発表
（大学・短期大学 卒業年次生）
19日（土）卒業式（大学・短期大学・大学院）
24日（木）前期オリエンテーション（大学）
〔至４月９日（土）〕
26日（土）オリエンテーション（大学院）
〔至４月９日（土）〕
29日（火）前期オリエンテーション（短期大学）
〔至４月９日（土）〕
31日（木）学年終り（共通）

４月 １日（金）学年始め（共通）
２日（土）履修登録締切（大学４年次生以上・短期大学２年次生以上）
オリエンテーション（法科大学院２年次生）
〔至９日（土）〕
４日（月）入学式（共通）
前期オリエンテーション（大学１年次生）
〔至９日（土）〕
５日（火）履修登録締切（大学３年次生）
前期オリエンテーション（短期大学１年次生）
〔至９日（土）〕
６日（水）履修登録締切（大学２年次生）
８日（金）履修仮登録締切（短期大学１年次生）
10日（日）前期授業開始（法科大学院）
11日（月）前期授業開始（大学・短期大学・大学院）
20日（水）履修訂正願提出締切（短期大学）
23日（土）履修登録締切（大学１年次生）
５月 ２日（月）年間一括・前期分学費納付期限（共通）

広　報　部

次年度より大阪学院大学 広報「*Shorloge*」は一号ごとの掲載記事をさらに充実させ、年２回（５月・11月）発行に変わります。

エクステンションセンター

2005年 春季講座 講座一覧

多様な興味・関心にお応えすべく次のとおり多彩な講座を開講します。
保護者のかたは在学生と同じ受講料で受講できます。

生活・教養コース
エレガントマナー講座上級編（女性対象）
ビューティー・アロマテラピー
かがきれいこの元気になるメイク講座 ―５歳若返るメイク―
かんたん着付で着物が楽しい 知って得する常識マナー
コーチング入門 ―友人・職場・親子・夫婦などの人間関係を円滑に―
奈良歴史散歩 ―当麻二上と浄土信仰―
日本料理の名店「吉兆」のおもてなしの心
プリザーブドフラワー －フレンチスタイルのアレンジメント－
自分でできるネイルケア －気軽にネイルアートを楽しみましょう－
産業カウンセラー入門 －心を結び、人を育てる－
リーガロイヤルホテル大阪で学ぶテーブルマナー講座
正木明のエコツアー ―地球温暖化編―
語学コース
TOEIC®テストスコアアップ講座
TOEFL®テスト入門 ―留学を目指す第一歩！―
英会話入門 ―英会話を始めよう！―
英会話初級 ―発音トレーニングで英会話力をアップ！―
親子で楽しく学ぶイングリッシュ（小学生・低学年対象）
中国語会話入門 ―初めて学ぶ中国語―
中国語会話初級 ―基礎から学ぶ中国語―
はじめてのイタリア語レッスン
イタリア語会話初級 ―イタリアへ旅行に行こう―
韓国語会話入門 ―ドラマで学ぶハングル語―
韓国語会話初級 ―もっと話そうハングル語―
トピック別英会話 ―Enjoy！English―
外国語としての日本語入門編
健康・スポーツコース
ハワイアンフラ入門
体も心も健康に！ 自分らしい素敵なエクササイズ
はじめてのゴルフ
ゴルフクリニック
足元を見つめ直そう！健やか足ツボ健康法 ―東洋医学から見た足ツボの効用―
エアロビックダンス エクササイズ インストラクター養成入門講座
エアロビックダンス エクササイズ インストラクター養成本科講座

マルチメディアコース
Word入門
Excel入門
デジタルカメラを使って暑中見舞・ポストカードを作りましょう
ホームページ作成
信頼性とテストからみたLSIの品質評価
マイクロソフト オフィス スペシャリスト Word2000受験講座（在学生対象）
マイクロソフト オフィス スペシャリスト Word2000エキスパート受験講座（在学生対象）
初級システムアドミニストレータ受験講座
初級システムアドミニストレータ受験講座 （e-Learning活用）
就職対策コース
就職筆記試験対策講座（SPI・一般常識）
就職面接対策講座
公務員 国Ⅱ・地方上級試験対策講座 （主要５科目・特別対策・教養克服）
公務員 国Ⅱ・地方上級試験対策講座（専門選択）
公務員 国Ⅱ・地方上級試験対策講座（直前対策）
公務員試験基本対策講座（１・２年次対象）
資格取得コース
社会保険労務士平成17年受験速修講座
宅地建物取引主任者受験講座
行政書士受験講座
国内旅行業務取扱管理者受験講座
総合旅行業務取扱管理者受験講座
通関士受験講座
販売士検定２級受験講座
簿記検定３級受験講座
インテリアコーディネーター受験講座（１次試験対策）
福祉住環境コーディネーター２・３級受験講座
ファイナンシャルプランナー（AFP）受験講座
マンション管理士受験講座
医療事務（診療報酬請求事務能力認定試験）受験講座
ビジネス実務法務検定３級受験講座
色彩検定２級受験講座
色彩検定３級受験講座

※３/22日（火）午前10時より先着順で受付を行います。なお、ご希望のかたには講座内容の詳細を記載した講座ガイドをお送りしますので、エクステンションセンターまでお申し込みください。
エクステンションセンター（２号館２階）〔９時～17時受付（日曜日・祝日等を除く）〕
TEL：06-6381-8434（代表）　URL：http://www.osaka-gu.ac.jp/life-edu/index.html